

さらに輝きを増す伊奈町へ、彩りそえる「バラ園」

およそ400種5000株を超えるバラが華麗に咲き誇る伊奈町のバラ園。県内最大のバラ園だ。毎年5月上旬から1か月程度開かれるバラまつりには5万人を越す来場者でにぎわう人気スポット。

バラ園は町の北部に位置する伊奈町制施行記念公園に開園。深紅や白、黄色など色とりどりのバラが迎える。淡い色と豊かな香りに包まれる。

バラまつりではさまざまなイベントを実施。目玉の一つがローズウェディング。カップルがバラに包まれ多くの来場者から祝福を受ける。昨年5月のローズウェディングでは大島清町長が立ち会い結婚証明書にサイン。ウェディングケーキの入刀やバラの植樹などが行われた。

伊奈町は埼玉県の中南部、都心から40^{キロメートル}圏内。東北新幹線と上越新幹線の分岐点。1983年12月に埼玉新都市交通伊奈線ニューシャトルが開通した。さいたま市大宮区のJR大宮駅から伊奈町の内宿までおよそ13^{キロメートル}を走っている。

伊奈という町名の由来となった伊奈備前守忠次公によるまちづくりも展開している。忠次公の功績や時代と背景などを学びながら、町内の丸の内地区を観光資源として磨き上げ、ブランド化しようというものだ。

取り組みの一つが散策路の整備。伊奈氏屋敷跡地内にウッドチップをまいて散策路をつくる。現在、散策路ができあがりつつある。忠次公の功績を楽しく学べる体験型のイベント。2020年2月に予定している。

忠次は徳川家康に仕え小室（現在の伊奈町丸の内）に構えた陣屋を拠点に利根川領域の治水、利水工事と新田開発、検地、中山道の整備など徳川家の関東支配の基盤を築いた。大島町長は「官民協働で伊奈備前守忠次公によるまちづくり事業をさらに充実させたい」と話す。

伊奈町は2020年11月に町制施行50周年の節目を迎える。さらに輝きを増す伊奈町に魅了されるだろう。

埼玉新聞社 東京支社長 秋谷 明宣



バラを町の花に制定した伊奈町の「バラ園」。春の見頃は5月中旬から6月上旬。秋は10月下旬から11月中旬が見頃。